

2025 年度第 2 回 職業実践専門課程

学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会

日 時：2026 年 5 月 28 日（水） 14：00～15：30

場 所：ヴォートレイル ファッション アカデミー 南館図書室

出席委員

学校関係者評価委員：糸井弘一（兼）、植田茂和（兼）、吉田充行、岩光栄太郎

教育課程編成委員：萩原直樹、志貴昌弘、河野あゆみ

学内委員：豊田晃敏、加藤圭太、和田康彦、枚山晶、松本亜梨紗、眞砂香、下岸貴美子、
関塚也

欠席委員：小林義歩、（教育課程編成委員）、大黒正人（学校関係者評価委員）

1. 開会のあいさつ
2. 校名変更に向けての取り組みと新 MVV の策定について
3. 活動報告（2025 年 4 月～2026 年 3 月）
4. 学校教育法改正に伴う「単位制」等の導入について
5. 2025 年度自己点検評価と学校関係者評価について
6. 閉会

*資料

- 2025 年度自己点検評価報告書

【議事録】

1. 開会のご挨拶と新委員のご紹介

校長より開会の挨拶が述べられ、今回より新たに学校関係者評価委員として着任された、泉尾工業高校の吉田充行教頭先生が紹介されました。

2. 「ヴォートレイル ファッション アカデミー」への校名変更と新 MVV の策定

当校は 2026 年 4 月 1 日より、「ヴォートレイル ファッション アカデミー（VOUTRAIL THE FASHION ACADEMY）」として新たなスタートを切りました。

■ 新たな MVV (Mission / Vision / Value) の策定

校名変更に伴い、新たな学校理念・行動指針となる「MVV」を策定しました。強いメッセージ性を持たせ、時代の先駆者を育成する方針を明確にしています。

- **経営理念**： クリエイションの力で、社会に「喜び」「自信」、そして「上昇気流」を。
- **教育理念**： 「Vogue (流行)」 + 「Trailblazer (開拓者)」。常に変わりゆく世の中において、時代の開拓者・先駆者となるトレンドセッターを創造する。
- **ビジョン**： アジアで比類なき成果を上げ、世界にその名を刻む孤高のファッションスクール。
- **教育方針**：「深層探求 → 概念化 → 言語化」
- **育てたい人物像**：「自問自答」し続ける、「既視感」を超える、「可能性」を追求する、「固有の世界観」を語る、「自分の軸」で生きる。
- **タグライン**： **Land of the Fashion Seekers (ファッション探究者たちの聖地)**

■ メディア展開

新校名のアピールとして、ファッション業界紙とのタイアップ企画が進行中です。

『WWDJAPAN』での村上編集長と豊田理事長の対談や、『織研新聞』でのユナイテッドアローズ上級顧問・栗野宏文氏と豊田理事長の対談などを通じて、校名変更の経緯やファッションへ教育に対する熱い想いを発信していきます。

3. 2025 年度 活動報告トピックス

2025 年度は、国内外での大規模なプロジェクトや国際交流、地域共創など、学生たちが大きな成果を上げました。

① 大阪・関西万博 2025 への参画

計 9 つの万博関連プロジェクトに参画。特に大阪商工会議所・関西ファッション連合主催の産学連携プロジェクト (約 2 年半のロングプロジェクト) では、スーパーデザイナー学科とファッション・クリエイター学科の学生が参加。1 枚の布からジャケットやパンツ、スカートに変形する「折り紙の服」などを具現化し、高い評価を得ました。

② 大手百貨店 (伊勢丹・高島屋・阪急) との共創

- **伊勢丹新宿店**： アップサイクルプロジェクト「ピース de ミライ」に参画。リーバイス® 501®のユーズドストックをアップサイクルした作品の販売や、学生 2 ブランドのポップアップショップを出店しました。
- **大阪高島屋**： サステイナブルイベント「DENIM SCRAMBLE」にて、学生がデザインしたデニムを三備産地の職人が製品化する取り組みを行いました。
- **阪急うめだ本店**： 映画『ウィキッド 永遠の約束』とのコラボ商品を企画・販売。

プレスイベントにはタレントのゆりやんレトリィバァさんが来校し、関西のテレビ各局で放映されました。

③ 世界的な舞台への挑戦（フランス・パリ）

- 世界最大級の素材見本市「ブルミエール・ヴィジョン・パリ（2026年2月展）」に招待され初参加。イタリアのポリモーダ校と共同で、廃棄着物をアップサイクルしたコレクション10体を展示し、学生が現地で設営や接客を経験しました。
- 3月には、合同展示会「TRANOÏ TOKYO」に初出展し、選抜学生6名が6つのブランドを発表しました。

④ 各種コンテストでの快挙

- **アジア新鋭デザイナーファッションコンテスト**：2年連続でグランプリを受賞。さらに今年は準グランプリも獲得し、ダブル受賞の快挙を成し遂げました。
- **国際コンペ「INJEKCIJA」**：卒業生の榎本さんが最高評価の「Laureate」に選出。
- **第1回デジタルアパレルデザインコンテスト**：2名が準グランプリを受賞し、当校のデジタル教育の成果を証明しました。

⑤ 環境・サステイナブルへの取り組み

TOPPAN、ヒューマンフォーラムと共同で、不要衣料を回収・再生するプロジェクト「WEAR TO GO?～着るの未来を考える～」に参画。うめきた公園に「未来の古着屋」をオープンし、ファッションビジネス学科の1年生がコーディネート販売やセット価格の導入を企画。古着を魅力的な商品として蘇らせました。

⑥ 国際交流の推進

アジアを牽引する専門学校として、フィリピンのラサール校（パーソナルスタイリング等のワークショップを実施）や、韓国の啓明大学（キャンパスツアー実施）からの研修・現場学習を受け入れ、学生間の国際交流を深めました。

⑦ 地域共創・CSR活動

- **新大阪・三国アートフェス**：子ども向けのアートワークショップを開催し200人以上が来校。ニットコースの学生によるマルシェ出店や、カフェスペースの地域開放を行いました。
- **十三の町おこしイベント「トライやる×ホリデー」**：老舗キャバレー「グランドサロン十三」を舞台に、昭和レトロな空間を活かしたスタイリングショーや作品展示を行い、地域住民を魅了しました。

⑧ 卒業制作発表会

2月11日にグランキューブ大阪にて盛大に開催。企業からの協賛金制度により、今年は45社から330万円のご協賛をいただき、運営コストへと充当させていただきました。

4. 学校教育法改正に伴う「単位制」等の導入について

2026年4月の学校教育法改正に伴い、当校の運営体制および教育システムを一部変更・強化いたしました。

① 呼称および基準の変更：

法的呼称が「生徒」から「学生」へ変更。入学資格も大学と同様の基準へと統一され、入学時の質の保証がより明確になりました。

② 教育の質の公的証明：

自己点検評価が義務化されました。また、5年に一度の第三者評価の実施と公表(努力義務)にも対応していきます。

③ 単位制への完全移行(2026年度新入生より)：

在校生は卒業まで現行の「時間制」を継続しますが、2026年度以降の新入生からは「単位制」を適用します(移行期間中は2つの制度が並走)。なお、当校では単位制と学年制を併用し、「各年次で規定の単位を修得しなければ進級できない」仕組みを継続します。

④ 進級ルールの厳格化：

- ・出席要件(2/3以上)ルールの厳守。
- ・成績評価は前後期の平均点。
- ・進級条件として、各学年で「31単位以上」の修得が必要となります。

⑤ 学科ごとの評価基準(欠点ライン)：

より高い専門性を求めるため、学科の特性に応じて以下の通り欠点(赤点)ラインを設定しています。

ファッション・クリエイター学科 / ファッションビジネス学科 / スタイリスト学科 54点以下

ブランドプロデューサー学科 64点以下

スーパーデザイナー学科 74点以下

26年4月より本運用のスタートに伴い、成績管理システム等の改修も順次進めております。

5.2025年度自己点検評価と学校関係者評価に基づく質疑・意見交換

校名刷新(ヴォートレイル ファッション アカデミー)に伴う新理念の浸透、法改正に伴う教育課程の見直し、学生支援や安全対策など、自己評価点検表の各項目に沿って委員による活発な議論が行われました。

1. 教育理念・目的・目標

校長：新たに策定した MVV(Mission/Vision/Value)はプレスリリースでの発表をはじめ、学生・保護者へも公表しました。今後はこれをいかに定着させていくかが課題です。

植田委員：弊社でも3月に理念を発表したばかりですが、根付かせるのは大変です。ミッション達成への時間軸(5年・10年などの計画)はどうお考えですか。

理事長：1~2年の短期スパンでシンプルに覚えてもらおうと考えています。ちなみに外部のコンサルタントは一切入れず、自分たちで構築しました。

植田委員：弊社は助言を得て10年後(創業100周年)を見据えたビジョンを立てました。現在は営業が自主的に動き始めた入口の段階です。

萩原委員：当社では大阪万博などのイベントにおいて、スタッフ自らサステイナブルの取り組み等についてお客様に紹介してくれています。スタッフの言葉を通して理念を言い続けることが定着への近道だと感じます。

岩光委員：私は経営塾への参加やオーダースーツの商売をしていますが、「理念が決まれば半分は成功」と言われるほど、判断基準となる理念の浸透は重要です。理事長が掲げられた「ファッションの聖地」というタグラインはとても良いと思います。

校長：卒業生として違和感はありませんか。

岩光委員：時代と共にブラッシュアップされ、アジアから世界へ広がれば良いと思います。

理事長：「聖地」と呼ぶためには、東日本を含め日本全国から学生が集まる場所にすることが重要だと考えています。

河野委員：弊社でもMVVを作成しようと考えていたので参考になります。学生の皆さんとはどのように共有されていますか。

校長：4月の始業式に30分の動画で説明を行いました。

理事長：実質的には学生に覚えてもらうものではなく、教職員が意識して教育方針を具現化するためのものです。学生が結果としてそれをどう感じ取っているか、謙虚に真摯に見極めていきたいです。

志貴委員：新しいMVVはまさに学校のブランディングそのものです。アパレルでも提唱者の熱量が重要ですが、末端まで浸透するには時間がかかるため、繰り返し伝える空気感が大切です。教職員の皆さんが一体となり、学校のブランド価値を高めていくことを期待しています。

糸井委員：経営理念にある「クリエイション」という言葉は、具体的にどう定義されていますか。

理事長：ここで生み出されるデジタル、アパレル、パターンなどを広く捉え、「デザイン」だけに限定せず「クリエイターを含めた学校の存在価値」として総合的に表現しています。

植田委員：ある製糸工場では、年に一度全従業員が理念について考える催しを行って会社の色付けをしています。常に意見を交わすことが大切ですね。

理事長： まずは我々が基盤を作り、浸透した先には教職員が主導して自分たちの思いを織り込んでいけるレベルを目指します。

2. 教育課程・教育実施・学修成果

校長： 新たな教育理念に基づく「教育課程編成・実施方針」の再整備を 2026 年度中に進めるため、現在の自己評価は「2（概ね満たしている）」としています。

萩原委員： 方針の作成と実際のカリキュラム配置の順序について、現状と新しい理念との間にギャップはありませんか。

理事長： カリキュラムは 1 年前に作成しているため、直近に策定した MVV との間に一時的な誤差（逆転）はありますが、今後アジャスト（微調整）していきます。

校長： 最近の高校生の傾向や、変化を感じる部分がありますか。

吉田委員： 発想が自由で考え方が多様化する一方、集団行動に馴染みにくい生徒もいます。特に現在の 1・2 年生は小中学校時代にコロナ禍のリモート学習を経験しており、友人との距離感を掴みにくい傾向があります。教員側も、彼らがこれまでとは違う形で自己アピールしているのではないかと意識して接しています。

校長： 企業の皆様から見て、学生に「もっとここを伸ばしてほしい」という点がありますか。

萩原委員： 弊社（約 200 店舗を展開）に入る新卒者は真面目でルールを守る一方、マニュアルに頼りがちで画一化（サラリーマン化）しやすい傾向があります。現場では商売としての「工夫」や「気概」を持って、新しい風を吹かせてほしいです。

河野委員： 若い世代の育成はどの企業も苦勞しています。ただ、異業種交流会などに参加すると、非常にやる気があり自ら事業を立ち上げるパワーを持った若者もおり、二極化（格差）が進んでいると感じます。

志貴委員： 期待値が高すぎると今の若者はプレッシャーを感じてしまうため、過度な期待をかけずに自発的に仕事に興味を持てる環境（分かりやすいフォーマットなど）を作ることが大事です。企業や学校は優秀な層にフォーカスしがちですが、中間の層が腑に落ちて成長できる受け皿をしっかりと作ることが、組織や学校の本来の役割ではないかと思えます。

3. 学生の受入れ、学生支援

萩原委員： 「学校保健計画」の策定状況が評価「2」となっている理由は何でしょうか。また、メンタルヘルスの対応はいかがですか。

校長： 年 1 回の健康診断など実際の健康管理体制は適切に運用していますが、計画書としての策定が未整備なため「2」としました。2026 年度中に策定予定です。メンタル面については個別に対応しています。

理事長： 以前配置していたカウンセラーは利用が少なかったため一度廃止し、現在は教職員がクラスルーム（グループ LINE 等のシステム）を活用して学生の異変にいち早く気づ

き、個別フォローする体制をとっています。課題が多くストレスを感じやすい学生のために、リフレッシュできるカフェスペースも新設しました。

校長： 多様な学生への支援として、国内の少子化もあり近年は留学生が増加しています。

理事長： 留学生にとって一番の課題はアパレル企業への就職（就労ビザの取得）です。日本語能力や技術が企業の採用水準に達していないケースもあり、内定率の低さが課題となっています。安易に専門外の就職先（受け皿）を作ることは学校の評価に関わるため、今後は海外の信頼できる語学学校等と連携し、優秀な留学生を確実に育成して企業へ繋ぐシステムを構築していきます。

系井委員： 留学生のビザの仕組みはどうなっていますか。

理事長： 専門学校を卒業し、採用企業との間で条件が合致すれば就労ビザが発行されます。

岩光委員： 今年度（2026年度）の留学生の主な内訳はどうなっていますか。

理事長： 中国や東南アジア圏が中心です。

加藤： 最近では政情不安の影響もあり、ミャンマーからの留学生も増えています。

理事長： 将来的にはヨーロッパからの留学生獲得も目指しています。欧米の有力校（パーソナルやポリモーダ等）は学費が非常に高額ですが、日本の専門学校は比較的安価であり、円安のメリットもあります。日本で学び、最終的に海外で学位（マスター）を取得するようなコストパフォーマンスの高い留学ルートをアピールし、企業とも連携していきたいです。

4.教育実施組織・教員

校長：項目4の教育実施組織・教員については、すべての項目で基準を満たしていると評価しました。何か違和感やお気づきの点はありますか。

校長：無いようですので、次の項目に移ります。

5. 教育環境

校長： 安全対策・防災組織の項目について、実際の避難訓練等は実施していますが、「学校安全計画」が未整備のため評価を「2」としています。こちらも2026年度中に策定します。

系井委員： ここでいう安全対策には、BCP（事業継続計画：災害・感染症・サイバーテロ時の対応策）まで含まれているのでしょうか。

理事長： 評価基準に直接 BCP まで含まれていませんが、学校としては人命救助を最優先とした避難経路の確保や初期消火訓練を行っています。また、水害や災害リスクを考慮し、ネットワーク中断を防ぐためサーバー室を3階へ移設し、屋根の防水塗装などの対策を行っています。

系井委員： 最近では商工会議所がサイバー攻撃を受ける事案もありました。ITセキュリティ面はいかがですか。

理事長： 学校として最も警戒すべきは個人情報の漏洩です。内部からの情報持ち出しを防ぐ追跡ソフト（SkySea Client View）の導入や、サイバートラスト社との契約など、セキュ

リティ強化を進めています。万が一のリスク発生時には、迅速に情報公開できる体制を整えています。

校長： 事後対策だけでなく、日頃からの予防や、評価項目外のリスクに対しても先回りして手を打っていく重要性を再認識いたしました。

6. 教育活動の基盤と改善・向上の取組

校長： 中期事業計画については、校名刷新や学科改編（ブランドプロデューサー学科の新設、ファッション・クリエイター学科のコース再整備など）を機に、あえて現在は2-3年先の重要な目標に集中しているため評価を「2」としています。一方で、プレスリリース等を通じた積極的な情報公開や、本委員会による学校評価の実施と改善活動については適切に機能しています。

長時間を超える有意義なご意見、誠にありがとうございました。新しい「ヴォートレイル ファッション アカデミー」の発展に向け、今後の学校運営に活かしてまいります。

（以上をもちまして、すべての審議を終了し閉会いたしました。）